

令和7年度 事業報告書

事業開始日： 2025 年 4 月 1 日

事業完了日： 2026 年 3 月 31 日

■実施事業

【1】普及事業（日本財団助成事業）

1. 剣道錬成大会の開催

(1) 第59回全国道場少年剣道大会

- a. 日程等：令和7年7月29日・30日
- b. 場 所：日本武道館
- c. 参加者：少年少女剣士 2日間で5,296名（監督数を含む）
※団体戦3人制で実施
※感染対策のため引き続きマスクまたはマウスシールド着用。
- d. 内 容：小学生の部、中学生の部 団体戦の実施

(2) 令和7年度都道府県道場少年剣道大会

- a. 日程等：4～6月
- b. 場 所：全国
- c. 参加者：少年少女剣士 34,870名

(3) 第41回全国道場対抗剣道大会

全国道場少年剣道選手権大会

（第49回小・中学生男子の部 第42回小・中学生女子の部）

- a. 日程等：令和7年10月19日
- b. 場 所：鹿児島アリーナ（西原商会アリーナ）鹿児島県鹿児島市
- c. 参加者：約950名（監督を含む）
- d. 内 容：
 - ア.道場対抗：小学生～指導者を1チームとし試合に臨む
 - イ.個人戦：各都道府県から選出された小中学生男女各個人の日本一を決定

2. 講習会等の開催

(1) 全国選抜少年剣道合宿錬成会

- a. 日程等：令和7年4月1日～3日
- b. 場 所：東京都 全日本少年剣道錬成会館
- c. 参加者：38人

(2) 剣道指導者研修会

ア. 第80回剣道道場指導者研修会

- a. 日程等：令和7年11月7日～9日
- b. 場 所：東京都 全日本少年剣道錬成会館
- c. 参加者：指導者等 52人

イ. 第81回剣道道場指導者研修会

- a. 日程等：令和8年2月27日～3月1日
- b. 場 所：東京都 全日本少年剣道錬成会館
- c. 参加者：指導者等 45人

(3) 地区剣道道場指導者講習会

ア. 東北地区（岩手）剣道道場指導者講習会

- a. 日程等：令和7年10月25日・26日
- b. 場 所：岩手県 盛岡市岩手県営武道館
- c. 参加者：指導者等 25日 63人、26日 69人

イ. 九州地区（沖縄）剣道道場指導者講習会

- a. 日程等：令和8年2月14日・15日
- b. 場 所：沖縄県 沖縄県立武道館 第二錬成道場
- c. 参加者：指導者等 14日 39人、15日 44人

3. 日本剣道少年団

(1) 第48回日本剣道少年団研修会＜体験実践発表・錬成会＞

- a. 日程等：令和8年3月8日
- b. 場 所：東京都 東京武道館
- c. 内 容：各都道府県支部および9地区予選を経た小、中学生各9名合計18名が剣道から学んだことを発表。錬成会、書道展（一般事業）の開催。

(2) 海外交流

ア. アメリカ合衆国受け入れ

- a. 日程等：令和7年7月8日～7月12日
- b. 場 所：全日本少年剣道錬成会館（東京都日野市）
- c. 内 容：アメリカ合衆国（カリフォルニア州）少年合宿受け入れ、交流稽古

イ. 大会招聘

- a. 日程等：令和7月29日～30日
- b. 場 所：日本武道館
- c. 内 容：大会への特別参加チーム招聘

ウ. 日台親善剣道交流会

- a. 日程等：令和11月22日～24日
- b. 場 所：練兵館（栃木県）
- c. 内 容：練兵館創立50周年記念 日台親善剣道交流会として招聘

4. ホームページ事業

- (1) 各種大会の開催案内、記録掲載
- (2) 各種講習会の開催案内、報告掲載
- (3) その他の情報公開（道場検索サイトの更新、SNS の利用）

【2】一般事業

1. 剣道大会の開催

(1) 第24回レディース剣道大会

- a. 日程等：令和7年12月7日
- b. 場 所：日野市市民の森ふれあいホール
- c. 参加者：小学生～一般 女性剣士 360チーム 1440名（監督数を含む）
- d. 内 容：女性によるジュニアの部、30歳未満の部、30歳以上45歳未満の部、

45歳以上60歳未満の部、60歳以上の部の3人制団体戦を実施

2. 講習会等の開催

(1) 第44回京都会員講習会

- a. 日程等：令和7年5月4日(日)
- b. 場 所：京都府 京都武道センター主競技場
- c. 参加者：八段講師64名、受講生約200名
- d. 内 容：連盟関係者の八段講師を招き、各地の道場主及び門下生の技術向上および意見交換を図る

3. 日本剣道少年団

(1) 令和7年度全国少年剣士書道展

- a. 日程等：令和8年3月8日
- b. 場 所：東京武道館
- c. 参加者：少年剣士（書道展は加盟外も可）応募作品数 2764作品
- d. 内 容：書道作品の募集、入選作品決定、第48回日本剣道少年団研修会会場における展示

(2) 優秀剣道少年団指導顧問・団員表彰

- a. 日程等：3月中旬に表彰者確定
- b. 対象者：加盟道場の指導者及び少年剣士 実績＝指導顧問41名、団員86名
- c. 内 容：剣道少年団活動の趣旨に従い、その活動を行った指導者、団員を表彰

4. その他の事業

少年剣士会員章（ワッペン）／少年剣士募集ポスター／大会後援事業、等

■助成事業目標の達成状況（日本財団報告事項）：

【1】基盤整備事業

A. 目標の達成状況

- 1. 開催した各種大会に子供たちが目標を持って臨むことで心身を鍛え、友人達との関係を深め、サポートしてくれる保護者や周囲の人達への感謝の気持ちが生まれる等、精神面、身体面ともに成長する機会を多く設けた。
- 2. 作文発表（弁論大会）では、道場の仲間や指導者などから受けた学び、試合の勝ち負けの中での成長など、子供たちが剣道から得た経験を自分で文章・発言にして伝え、更なる成長の場となった。併せて書道作品募集を行い、学業面でバランスのとれた青少年育成の場を設けた。
- 3. 少年合宿会においては全国から選抜した意欲、技術ある少年・少女剣士を本部道場である錬成会館に集め、優秀な講師陣のもと、集団生活からの学びを得る機会となった。実施後の感想文からは、80才を超える先生からの言葉が心に残ったことや、出身地の違う仲間を作れたこと、学んだことを地元道場でも実践したいといった内容が見られた。
- 4. 指導者講習会、研修会において、指導者の日本の伝統文化としての剣道の質を高め、コンプライアンスの向上を図ると共に、少年指導力の向上を図った。

5. 今年度は特に物価高騰に悩まされたものの、環境維持、安全性の維持・改善に努め、剣道を学ぶ子供たちの成長の場を維持すると共に、会員数も増加は難しかったが保つことができた。

B. 実施により得られた成果

- ・これからの時代を担う子供たちにとって学校外の学びとなる場を、剣道を通じて多く設けた。
- ・子供たちがそれぞれの目標を持ち、老若男女を問わず集まる道場・剣友会の中で、大人たちのサポートのもと、剣道を通じ礼儀作法や感謝の心を大切にしながら、心身ともに強く逞しく成長する場を設け、また後援等を行い、各地の活動を支援した。

C. 成功要因

- ・青少年健全育成を目標とした剣道活動は各地の地元支部の努力を根幹としているため、都道府県大会の推進にあたり地元役員（事務局・係員等）への支援を、やり繰りの中で若干ではあるが追加した。
- ・新型コロナウイルス蔓延の頃に整えた大会運営方法等のよい部分を残すことで、準備や進行を安全かつスムーズに行えた。

D. 新たな課題

- ・物価高騰への対応。会場設営費、賞品代、旅費等に対する縮減を考えていきたい。

【2】剣道の普及振興

A. 目標の達成状況

1. 子供たちが各種剣道大会に向けて厳しい修練を経て、強靱な心身、克己心、忍耐力等を養う場を設けた。
2. 全国道場少年剣道大会：2日間 1324 チーム、監督含め 5296 名の、試合を通じた交流、経験の場を設けた。施設の安全面から例年同等の活動人数を維持した。
3. 都道府県道場少年剣道大会：団体戦参加者数は昨年度同等の 15,905 名に留まったが、個人戦等は 18,965 名で昨年から約 3,000 名増加、合計 34,870 名となり目標は達成することができた。
4. 全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会：個人戦選抜者 4 部門 256 名参加、道場対抗は試合可能数上限に若干満たない 73 チームの参加ではあったが、盛会に開催することができた。
5. 少年合宿会：少年少女剣士 38 名が集まり、正しい剣道の指導と集団での節度、協力精神を学んだ。他の行事への参加等の理由で辞退する都道府県支部もあり目標に満たない結果となったが、内容の濃い合宿が行われた。
6. 指導者講習会・研修会：第一回指導者講習会 52 名、第二回 45 名、岩手研修会約 69 名、沖縄研修会約 44 名が参加した。地域、時期によって参加人数に変動があるが、少年指導の向上を図り、コンプライアンスの徹底等を含めた内容の濃い講習が実施された。
7. 剣道少年団研修会で作文応募数は小中合計 1,626 作品に留まった。但し昨年から 129 応募増加しており、身体面、学業面でのバランスのとれた青少年育成を推進できた。

8. ホームページのアクセス数年間合計 100 万アクセスを目標としたが、約 20 万アクセスと昨年からデータ上 50 万程度減少した。過去にここまで急激な減少は経験なく、google 解析の仕様によって変動が出ているとも考えられる。X は 100 アカウント程減少、facebook は 1000 程フォロワーが増加した。

B. 実施により得られた成果

- ・全国 47 都道府県支部の活動を推進し、伝統文化の継承として最も重要と考える地元少年剣道の活性化を通じ、子供たちの心身の健全育成を行った。
- ・少子化の中、団体戦を組めない道場もあることから都道府県大会への団体戦参加数が想定より伸びなかったが、各支部の努力により『幼少年の部』を設ける等の工夫から個人戦参加数が大幅増加した。全国にわたり剣道を通しての青少年育成の場を設けることができた。
- ・各道場の指導者に対し、コンプライアンス向上を含めた講習を行い、本年度の開催担当であった沖縄、岩手をはじめ、各地の指導力の向上に努めた。
- ・剣道少年団研修会で作文の応募数は 1800 に満たなかったが、子供たちの成長や学びが直に伝わる作品が今年も多く集まった。生涯学習を目的とした剣道の良さを関係者である大人たちも実感を得たと共に、武道のよい面の継承に努めることができた。

C. 成功要因

- ・最も重要な活動は各地域や現場の活動であり、特に各都道府県支部の努力により少子化の中でも生涯学習を目標とした少年剣道の普及、維持、発展に努めることができた。

D. 失敗要因

- ・急激な物価高騰の中、大会規模の維持や安全管理面から必要となる経費が多く、例年より経費がかさんだ。
- ・全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会について、各地域の活性化、地元剣道の発展を目的としているためやむを得ないが、今年度の大会を鹿児島で行ったことにより役員・職員等の交通費が例年以上にかさんだ。
- ・同大会の準備を大会の前日から行わなければならない、各主管支部に金銭面でも負担をかけている状況。
- ・剣道少年団研修会で作文の応募数が、昨年よりも回復したものの以前の応募 1800 作に及ばず、本事業の普及方法を模索している。

E. 新たな課題

- ・近年の物価高騰、とくに宿泊費、郵送費、賞品購入費等の値上がりが凄まじく、対応が追い付いていない。
- ・経費削減の目的もあり、申し込み手続き等の DX 化も視野に入れているが、業務改善の目的で一部の事業で google フォーム等 WEB システムを利用したものの、業務上返って大幅な手間になる部分もあり、引き続き検討が必要。

・少年団研修会の作文発表会は子供たちが自分で経験を言葉にしたり、まとめたり、他者に伝える大きな成長の場であり、剣道少年団の社会活動の一環として大きな意味を持っていると考えるため、多くの少年剣士に参加してもらいたく、今後工夫が必要。

■事業成果物（日本財団報告資料）

完了報告書等

- ・各大会および講習会報告 文書
- ・各大会および講習会報告 写真
- ・各大会 データ資料
- ・各大会 プログラム抜粋
- ・各講習会 配布パンフレット

※本報告書の項目は、日本財団への事業完了報告書に準じる形式で作成した

以上